
R8C/35A、R8C/35C、R8C/35D、R8C/35Mグループ

R01AN0349JJ0201

R8C/35A、R8C/35C、R8C/35D、R8C/35Mグループの相違点

Rev.2.01

2011.2.3

1. 要約

この資料は、R8C/35A、R8C/35C、R8C/35D、R8C/35Mグループの相違点を確認する際の参考資料です。

2. はじめに

この資料は次のマイコンに適用されます。

- マイコン : R8C/35A、R8C/35C、R8C/35D、R8C/35Mグループ

3. 相違点の説明

3.1 機能及び仕様の相違点

表 3.1、表 3.2に機能及び仕様の相違点を示します。詳細と電気的特性については、「5. 参考ドキュメント」に記載のドキュメントを参照してください。

表 3.1 機能及び仕様の相違点(1)

項目	R8C/35Aグループ	R8C/35Cグループ	R8C/35Mグループ	R8C/35Dグループ
メモリ	ROM/RAM ・ 16KB/1.5KB ・ 24KB/2KB ・ 32KB/2.5KB ・ 48KB/4KB ・ 64KB/6KB ・ 96KB/8KB ・ 128KB/10KB			R8C/35Dグループ ・ 16KB/1KB ・ 24KB/1KB ・ 32KB/1KB
電圧検出回路	検出電圧選択可 (VCCまたはLVCMPP2端子)	検出電圧選択不可	検出電圧選択可 (VCCまたはLVCMPP2端子)	検出電圧選択不可
バス制御	DA0、DA1、RMAD0、AIER0、RMAD1、AIER1レジスタは、16ビットバスでCPUと接続			RMAD0、RMAD1、AIERレジスタは、8ビットバスでCPUと接続
クロック発生回路	周辺機能クロック fC2あり			fC2なし
高速オンチップオシレータ	なし(注1)	あり(注2)		
パワーコントロール	不可	可	不可	可
割り込み	・ CM37～CM36ビットの"10b"の選択 ・ 高速オンチップオシレータモード時、CM37～CM36ビットが"00b"の状態でのストップモードへの移行 ・ 低速クロックモード時、CM37～CM36ビットの"11b"選択	可	不可	可
DTC	あり			なし
タイマRD	あり			なし
シリアルインタフェース	UART1 id(C-Q) TXDi出力遅延時間	最大 70ns(VCC=5.0V)	最大 50ns(VCC=5.0V)	最大 50ns(VCC=5.0V)
割り込み	・ 割り込み要因数：40要因 ・ 外部割り込み入力：9 (INT×5、キー入力×4)	・ 割り込み要因数：36要因 ・ 外部割り込み入力：9 (INT×5、キー入力×4)	・ 割り込み要因数：40要因 ・ 外部割り込み入力：9 (INT×5、キー入力×4)	・ 割り込み要因数：30要因 ・ 外部割り込み入力：9 (INT×5、キー入力×4)

注1. 高速オンチップオシレータの機能がないため、周辺機能のカウントソースとして選択できません。

注2. 電気的特性が異なります。各グループのドキュメントを参照してください。

表 3.2 機能及び仕様の相違点 (2)

項目	R8C/35Aグループ	R8C/35Cグループ	R8C/35Mグループ	R8C/35Dグループ
シンクロナス シリアルコミュニケーション ユニット(SSU)	あり			なし
I ² Cバスインタフェース	あり			なし
ハードウェアLIN	あり			なし
A/Dコンバータ	1端子あたりの変換 速度 (φAD=fADのとき)	最短43φADサイクル	最短44φADサイクル	
	サンプリング時間	15φAD (φAD = 20MHz : 0.75μs)	16φAD (φAD = 20MHz : 0.8μs)	
A/D変換実行時間	断線検出禁止 : φADの40サイクル 断線検出許可 : φADの42サイクル	断線検出禁止 : φADの40サイクル + fADの1~3サイクル 断線検出許可 : φADの42サイクル + fADの1~3サイクル		
D/Aコンバータ	あり			なし
コンパレータA	あり	なし	あり	なし
フラッシュ メモリ	サスペンド機能に おいて、自動消去 中断中のプログラ ム動作(フラッシュ メモリへの書き込 み) イレース開始また は再開から次の サスペンド要求 までの間隔 自動消去が終了 するために必要な サスペンド間隔 データフラッシュ (BGO機能含む)	不可	可	
		最小 : 33ms	最小 : 0ms	
		最小 : 33ms	最小 : 0ms	
	あり			なし

3.2 端子機能の相違点

表 3.3 に周辺機能端子が割り当てられている入出力ポートの相違点を示します。詳細については、「5. 参考ドキュメント」に記載のドキュメントを参照してください。

表 3.3 端子機能の相違

周辺機能端子名	割り当てられている入出力ポート		
	R8C/35Aグループ	R8C/35Cグループ	R8C/35Mグループ
LVCMP1	P1_0	—	P1_0
LVCMP2	P1_1	—	P1_1
LVREF	P1_2	—	P1_2
LVCOUT1	P1_3	—	P1_3
LVCOUT2	P1_6	—	P1_6
CLK1	P6_5,P6_2,P0_3	—	—
RXD1	P6_4,P0_2	—	—
TXD1	P6_3,P0_1	—	—
TRDIOA0	P2_0	—	—
TRDIOB0	P2_2	—	—
TRDIOC0	P2_1	—	—
TRDIOD0	P2_3	—	—
TRDIOA1	P2_4	—	—
TRDIOB1	P2_5	—	—
TRDIOC1	P2_6	—	—
TRDIOD1	P2_7	—	—
TRDCLK	P2_0	—	—
SCL	P3_5	—	—
SDA	P3_7	—	—
SSI	P3_4	—	—
SCS	P3_3	—	—
SSCK	P3_5	—	—
SSO	P3_7	—	—
DA0	P0_6	—	—
DA1	P0_7	—	—

—：周辺機能端子はありません。

表 3.5 SFRの相違点(2)

R8C/35A グループ	R8C/35C グループ	R8C/35M グループ	R8C/35D グループ	R8C/35Aグループに対する相違(注1)	
				R8C/35Cグループ	R8C/35Mグループ
DTCVCT0~63(注2)			-		-
DTCD0~23			-		-
TRAI0C			TRAI0C		ビット3削除
MSTCR			MSTCR		ビット3,4削除
TRCCR1	TRCCR1			ビット4~6機能変更	
TRDECR			-		-
TRDADCR			-		-
TRDSTR			-		-
TRDMIR			-		-
TRDPMR			-		-
TRDFCR			-		-
TRDOER1			-		-
TRDOER2			-		-
TRDOCR			-		-
TRDDF0			-		-
TRDDF1			-		-
TRDCR0	TRDCR0		-	ビット0~2機能変更	-
TRDIORA0			-		-
TRDIORC0			-		-
TRDSR0			-		-
TRDIER0			-		-
TRDPOCR0			-		-
TRD0			-		-
TRDGRA0			-		-
TRDGRB0			-		-
TRDGRC0			-		-
TRDGRD0			-		-

- : SFRはありません。
注1. 空欄はR8C/35Aグループとの相違なし。
注2. DTC転送ベクタ領域(2C00h~2C3Fh)。

表 3.6 SFRの相違点(3)

R8C/35A グループ	R8C/35C グループ	R8C/35M グループ	R8C/35D グループ	R8C/35Aグループに対する相違(注1)	
				R8C/35Cグループ ビット0~2機能変更	R8C/35Mグループ
TRDCR1	TRDCR1				
TRDIORA1					
TRDIORC1					
TRDSR1					
TRDIER1					
TRDPOCR1					
TRD1					
TRDGRA1					
TRDGRB1					
TRDGRC1					
TRDGRD1					
U1MR					
U1BRG					
U1TB					
U1C0					
U1C1					
U1RB					
LINCR2					
LINCR					
LINST					
SSBR					
SSTDRI/CDRT					
SSTDRIH					
SSRDR/ICDRR					
SSRDRH					
SSCRH/ICCR1					
SSCRL/ICCR2					
SSMR/ICMR					
SSER/ICIER					
SSSR/ICSR					
SSMR2/SAR					
ADM0D	ADM0D		ADM0D	ビット2機能変更	ビット2,6,7機能変更
DA0					
DA1					
DACON					
FMR1		FMR1			ビット4~7削除

ー：SFRはありません。
注1.空欄はR8C/35Aグループとの相違なし。

3.4 割り込みベクタの相違点

表 3.7に固定ベクタテーブルの相違点と可変ベクタテーブルの相違点を示します。詳細については、「5. 参考ドキュメント」に記載のドキュメントを参照してください。

表 3.7 固定ベクタテーブルの相違点と可変ベクタテーブルの相違点

固定ベクタテーブルの相違点				
ベクタ番地 番地(L)~番地(H)	R8C/35Aグループ の割り込み要因	R8C/35Cグループ の割り込み要因	R8C/35Mグループ の割り込み要因	R8C/35Dグループ の割り込み要因
0FF0h~0FF3h	ウォッチドッグタイマ、 発振停止検出、 電圧監視1/コンパレータA1、 電圧監視2/コンパレータA2	ウォッチドッグタイマ、 発振停止検出、 電圧監視1、 電圧監視2	ウォッチドッグタイマ、 発振停止検出、 電圧監視1/コンパレータA1、 電圧監視2/コンパレータA2	ウォッチドッグタイマ、 発振停止検出、 電圧監視1、 電圧監視2
可変ベクタテーブルの相違点				
ソフトウェア 割り込み番号	R8C/35Aグループ の割り込み要因	R8C/35Cグループ の割り込み要因	R8C/35Mグループ の割り込み要因	R8C/35Dグループ の割り込み要因
8	タイマRD0			
9	タイマRD1			
15	シンクロナスシリアルコミュニケーションユニット/2Cバスインタフェース			
19	UART1送信			
20	UART1受信			
50	電圧監視1/コンパレータA1	電圧監視1	電圧監視1/コンパレータA1	電圧監視1
51	電圧監視2/コンパレータA2	電圧監視2	電圧監視2/コンパレータA2	電圧監視2

4. 注意事項

各製品毎にXIN-XOUT、XCIN-XCOUTの発振回路定数が異なりますので、発振回路定数について、発振子メーカーとご相談の上、発振子および発振回路定数を決定してください。量産でご使用になる製品が、お客様のシステム・条件で安定した動作クロックを得られるようにしてください。ご使用になる電圧範囲や温度範囲が広い場合は特にご注意ください。また、あらかじめ帰還抵抗、ダンピング抵抗、負荷容量の配線パターンを考慮した回路設計をして頂くことを推奨いたします。

また、特性面においても、電気的特性の範囲内で特性値、動作マージン、A-D変換精度、ノイズ耐量、ノイズ輻射量などの実力値が異なる場合があります。

お客様で個々の製品毎に十分システム評価を実施してください。

5. 参考ドキュメント

R8C/35A グループ ユーザーズマニュアルハードウェア編 Rev.0.40
R8C/35C グループ ユーザーズマニュアルハードウェア編 Rev.1.00
R8C/35D グループ ユーザーズマニュアルハードウェア編 Rev.1.00
R8C/35M グループ ユーザーズマニュアルハードウェア編 Rev.0.10

(最新版をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

テクニカルアップデート/テクニカルニュース

(最新の情報をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

ホームページとサポート窓口

ルネサス エレクトロニクスホームページ

<http://japan.renesas.com/>

お問合せ先

<http://japan.renesas.com/inquiry>

改訂記録	R8C/35A、R8C/35C、R8C/35D、R8C/35Mグループ R8C/35A、R8C/35C、R8C/35D、R8C/35Mグループの相違点
------	--

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2010.6.24	-	初版発行
2.00	2011.1.20	-	ドキュメント番号変更(旧番号:RJJ05B1564)
		全ページ 2	R8C/35Mグループの相違点 追加 表3.1 「パワーコントロール」「A/Dコンバータのサンプリング時間」、 「A/DコンバータのA/D変換実行時間」の相違点追加、「注2」追加
2.01	2011.2.3	全ページ	表記見直し
		2	表3.1 「パワーコントロール」改訂
		5	表3.4 CM3改訂

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本文を参照してください。なお、本マニュアルの本文と異なる記載がある場合は、本文の記載が優先するものとします。

1. 未使用端子の処理

【注意】未使用端子は、本文の「未使用端子の処理」に従って処理してください。

CMOS 製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI 周辺のノイズが印加され、LSI 内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。未使用端子は、本文「未使用端子の処理」で説明する指示に従い処理してください。

2. 電源投入時の処置

【注意】電源投入時は、製品の状態は不定です。

電源投入時には、LSI の内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。

外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。

同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. リザーブアドレス（予約領域）のアクセス禁止

【注意】リザーブアドレス（予約領域）のアクセスを禁止します。

アドレス領域には、将来の機能拡張用に割り付けられているリザーブアドレス（予約領域）があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

4. クロックについて

【注意】リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。

プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。

リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

5. 製品間の相違について

【注意】型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。

同じグループのマイコンでも型名が違うと、内部 ROM、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ輻射量などが異なる場合があります。型名が違う製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事事務の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制するRoHS指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注1において定義された当社の開発、製造製品をいいます。



ルネサス エレクトロニクス株式会社

■営業お問合せ窓口

<http://www.renesas.com>

※営業お問合せ窓口の住所・電話番号は変更になることがあります。最新情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

ルネサス エレクトロニクス販売株式会社 〒100-0004 千代田区大手町2-6-2（日本ビル）

(03)5201-5307

■技術的なお問合せおよび資料のご請求は下記へどうぞ。

総合お問合せ窓口：<http://japan.renesas.com/inquiry>